

《內經》“形神理論”在針灸治療心身疾病中的應用

趙吉平

北京中醫藥大學東直門醫院

《內經》中的“形神理論”對針灸治療痛證、過敏性疾病、精神疾患等具有重要意義。本文將通過分析《內經》中的形神理論，探討心身疾病的針灸治療思路。

一、《內經》對形神理論的认识

1. 《內經》中對“神”的认识，可以概括為三点：代表自然現象及其變化規律、人體生命活動的內在功能、人的精神活動。
2. 形神觀的理論基礎。人是“形與神俱”的統一體，無形則神無以生，無神則形無以活。
3. 形神關係在生理、病理、治療方面的意義。

形神一體的生理觀，突出了精神心理對軀體生理的調控作用。

形神一體的病理觀，闡明了情志因素與臟腑病的關係。

中醫學把心與身的關係概括為神與形的關係，形神一體論對於臨床有重要指導意義。

二、心身疾病的針灸治療思路

1. 調腦神，治療多種神經系統疾病、疑難病證。如中風、癲狂癇等調腦神。
2. 調心神，治療多種身心疾病。如治療痛證調心神；治療濕疹調心神。
3. 調肝神，治療多種身心疾病。如治療漏肩風調肝神，治療過敏性鼻炎調肝神，治療哮喘調肝神，治療多囊卵巢綜合症調肝神，治療帶狀皰疹調肝神。

另外，治療消化系統疾病、治療高血壓病等，也常選用調神穴位以提高療效。

鍼灸実技講演

心身疾患の鍼灸治療における『内經』“形神理論”的応用 (翻訳版)

趙吉平

北京中医薬大学 東直門病院

『内經』における“形神理論”は疼痛疾患、アレルギー疾患、精神疾患の鍼灸治療においてとても重要な意義がある。本セッションにて『内經』における形神理論の分析を通して心身疾患に対する鍼灸治療の考え方を討論していく。

1. 『内經』における形神理論の認識

1. 『内經』における“神”的認識は三つに総括できる。

自然現象とその変化の法則の代表、人体生命活動の内在機能、人の精神活動。

2. 形神觀の理論的基礎。

人は“形与神俱”的統一体で、形がなければ神は生まれず、神がなければ形は生きない。

3. 形神關係の生理的、病理的、治療的な意義。

形神一体の生理觀は精神心理の身体生理へのコントロール作用に突出している事である。

形神一体の病理觀は情志的要因と藏府の病との関係を明確にしている。

中医学において心と身の関係を神と形の関係に総括している事で形神一体論は臨床において重要な指導的意義がある。

2. 心身疾患に対する鍼灸治療の考え方

1. 調脳神：様々な神經疾患、難病を治療する。例）脳卒中、癲癇など

2. 調心神：様々な心身疾患を治療する。例）疼痛疾患、湿疹

3. 調肝神：様々な心身疾患を治療する。例）肩関節周囲炎、アレルギー性鼻炎、喘息、多囊胞性卵巣症候群、帶状疱疹

その他にも消化器疾患や高血圧の治療などにおいても調神の経穴を用いる事で効果を高めることが出来る。